

第一回 謀報々告

(モリスチアス島
ニ関スル分)

0006

一覽

海

軍務局

軍令部

別三到來

生駒機

五九號

明治四十三年六月三日於市トベルグラ

生駒艦長 壯司 義基

海軍大臣男爵齋藤 實殿

局員 史

謀報々告進達 伴

軍艦生駒 第一回 謀報々告

右進達 別冊一添

終

海軍 陸軍 務

七月十三日

海

軍

0007 0000

艦

軍艦生駒第一回謀報報告

(モリリチアス島三関スル分)

0008

0007

目次

モリリキヤス島

一、地理

位置、地勢、港灣、氣候、地質

二、歴史

三、住民

人口、言語

四、政治組織

立法機關、中央行政、地方行政、法律

五、財政

(一) 歳計

海

軍

0009

(二) 公債

(三) 貨幣

六、産業

七、貿易

輸出入船舶

八、交通

鐵道、道路及電信、船舶航路、海底電線

九、市邑

ポルトガル、スエデン、マニラ、ブルグ

十、ポルトガル

概況、錨地、港則、燈船、位置及燈質

入港針路法、暴風信号

注意事項、水上警察、報時球

0010

三線儀、比較、船渠並修理工場

石炭、油、淡水

十一、海軍ニ関スル事項

一、編制

(一) 砲台ノ位置

(二) 兵營ノ狀況

(三) 教育訓練ノ程度

(四) 守備軍司令官ノ談話

十三、衛生狀況

(一) 人口、死亡率及出產数

(二) 疾病

(三) 兵營ノ衛生

(四) 水道

五四一九

六五

海軍

0011

十四	一般ノ觀察	七六
十五	戰畧的價値	七八
	附言	八四
附録		
	レユニオン島	八五
	一般狀況	八五
	軍事上ノ所見	八三
	ロドリゲス島	九五
	一般狀況	九五
	軍事上ノ所見	九八
	チエゴガルシヤ島	一一一
	一般狀況	一一一

0012

軍事上ノ所見

「マダカスカル」島

一般状況

本島ノ将来

軍事上ノ所見

終

一〇五

一〇七

一〇七

一一五

一二六

海軍

0013



0014

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

0018

位置

地勢

一、地理

モリリヤス島(英領)印度洋ノ南西部ニアリテマダガスカル島ノ東方約五百哩ニ位置セルマスカレン群島ノ一ニシテ南北ノ長サ三十六哩東西ノ幅二十八哩面積七百〇八平方哩アリ

本島ノ南西方百二十五哩ニシユニオニ島(佛領)東方三百哩ニロドリゲ島(英領)アリ以上ノ三島ヲ稱シテマスカレン群島ト云フ

全島噴火地質ニシテ鉄銹色ノ粘土ヨリ成リ現ニ噴火セル火山ナシ島ノ北方西方及東南方ニハ何レモ三千呎ヲ超エザル三山脉連亘ス其ノ他ノ沿岸ハ平地多ク島ノ中央部半埋タル高原ヲナセリ之レヲウヰルレハ高原ト稱ス溪谷地

0016 0015

港灣

氣候

<p>沿テ小河四周ニ流レ其ノ數六十餘ニ達スルモ船舶ノ湖航ニ得バキモノナレ</p>	<p>本島ノ沿岸ハ河口ヲ除クノ外珊瑚礁ヲ以テ圍繞セラレ</p>	<p>ノ幅員三四哩狭キモ半哩ニ達ス</p>	<p>船舶ノ出入ニ適スル灣港ハ島ノ北西方ニホートルイス及南東方ナルグラニボルトマハブルグノ二者ニ過ギズ但シ前者優レリトス</p>	<p>本島ハ熱帶ニ位置セルヲ以テ氣候モ徒ツ炎熱ニ沿岸ノ平地ハ暑氣尤モ酷烈ナルモ高原地方ハ稍溫和ニシテ健康ニ適ス故ニ中流人士以上ノ住居ハ殆ント此等高原地方ニ限リ</p>	<p>夏季ハ一般ニ十月ヨリ四月迄ニシテ一月二月三月ノ頃ハ海岸ノ低地ニ於テハ炎熱殆ンド堪ハ難シト云フ</p>
--	---------------------------------	-----------------------	--	---	---

二頁

0017 0018

地質

冷季ハ五月ニ始マリ九月ニ終ル

又十月ヨリ四月迄ハ屢々颶風起ルコトアリテ陸上ノ人畜

モ大害ヲ興フルコト少カラズ十一月ハ概シテ雨多シ

土地ハ豊穰ニシテ甘蔗全島ニ繁茂シ茶煙草綿等

ノ栽培ニ適ス

二、歴史

本島ハ隣島レニオト全ジク紀元千五百年ノ始ノ葡萄

牙人ニ依リテ発見セラレタルモ葡人ハ較テ之ヲ葡領トセズ無人

島ノ終放棄セルガ千五百九十八年ニ至リテ葡將ガエ、ワルイッ

クシ之レヲ白領シ時、和蘭聯邦盟主ナツソ山公マウリスノ名

ニ因ミテ之レヲモリリアスノ名ヲ興テ千六百四十二年ヨリ葡人

三

0018 0007

始メテ移住シマハブルグ其ノ他ヲ開キモ千七百十二年ニ至リ
再ビ之レヲ放棄スルニ至リ

其ノ后千七百十五年佛國海軍大佐シユフリース軍艦シヤ

ソール号ニテ来島シタル際ハ再ビ無人島トナリ居リシヲ以テ之ヲ

併領ト宣言シ島名ヲ佛蘭西島ト改メ右佛人

ノ移住スルモノヨリ千八百三十五年「マドラガールドンチー」民マス

カレン群島知事トシテ赴任シ銳意移民殖産ヲ奨励シ

タルニ依リ群島大ニ繁栄ヲ来セリ全知事ハ群島ニ良

港ナキヲ憂ヒ探検ノ結果本島ノ北西方ニポートルイスノ

群島中唯一ノ良港ナルヲ発見シ之ヲ設備シカシ注

ギタルヲ以テ尔来群島商業ノ中心ハシユオニテ離

テ本島ニ移リ倍々盛ナルニ至リ

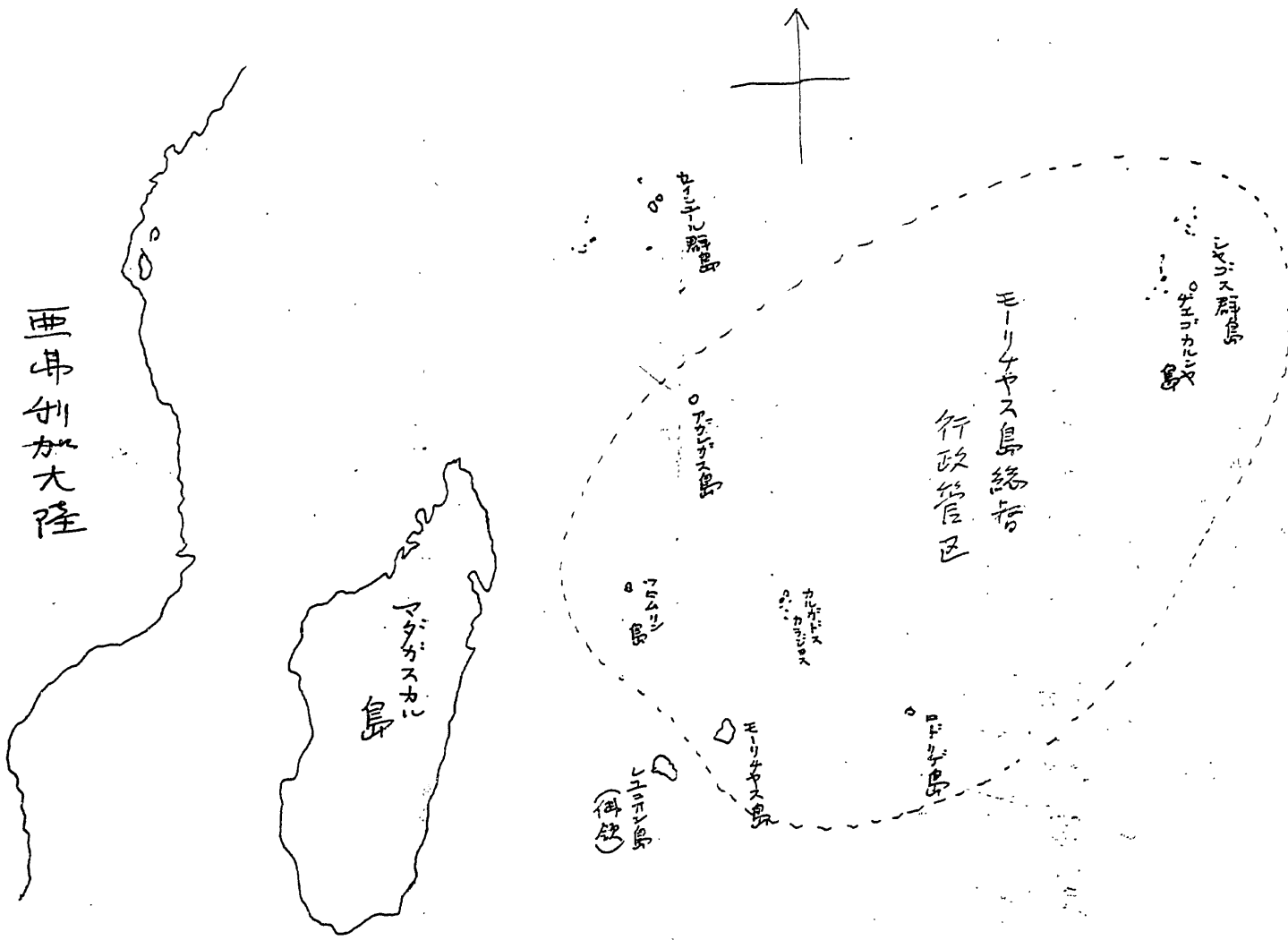
斯クテ本島ハ佛人ノ手ニ在ルヲ凡ソ百年一千八百十年奈

0019 0018

翁戦争ノ際、フライバチユア¹、免許私有船²ノ根拠地トシテ
 英國ノ貿易ヲ苦シメタリシガ、英國艦隊ハ遂ニロニオニ³ヲ征
 服シテ本島ニ来リ、佛國⁴トケ⁵ト⁶將軍ノ頑強ナル抵抗ニ打
 勝テ、全年十月全島ヲ平定シ、島名ヲモリリニヤ⁷ニ復シ、千八
 百十四年ノ條約ニ依リ公然英領トナリ、以テ現存ニ至ルマ
 デ英國ノ治下ニ在リ、⁸ロニオニ⁹ハ千八百十五年英佛ノ條約
 依リ再ビ併領ニ復セリ、
 目下總督¹⁰ヲ置キ、附近小島嶼¹¹ヲ合セ、總バニテ Crown
 Colony 即チ本國殖民者ノ支配ヲ受クル殖民地制
 度ニ依リ統治ス、¹²アリ、¹³畧、¹⁴參照、

三 住民

0020 0019



人口

全島ノ人口約三十七万余(千九百八年調)其内印度人二十
六万余ニテ他ハ佛人及土人ノ混合種タルヲモルル并ニア
フリカ土人支那人及小教ノ英人^佛成ル

上記ノ如ク *Hindoo* *maulanas* 人口ノ大部 分ケタルニ

ナラス商業農業ニ從事シ相應ノ土地資産ヲ有スルモ、少

カラズト云フ

言語

人民ハ一般ニ英佛両語ヲ使用ス但シ法廷ニ於テハ英語
ヲ用フ

議院

四、政治組織

本島ノ立法機關 *Legislative Council* ニシテ 總督自

ラ議長トナリ 總督指命ノ議員九名、本島主要ノ官

議院

0022

吏中ヨリ八名、公選議員十名計二十七名、議員ヲ以テ
 織シト毎年四月ヨリ十二月ニ至ル期間ヲ以テ開會ノ時機トセリ
 而シテ總督ノ指命ニ係ル九名、議員中少クモ三名以上ハ
 官吏ニ非ザルモノナラントセリ
 公選議員選出ノ方法ハ全島ヲ九箇ノ選挙區ニ分テ
 一トルイニヨリ二名也ノ選挙區ヨリ各一名ツテ選出セルモノナリ
 選挙權所有者ノ資格ハ左ノ如ク規定ニアリ
 (1) 不動産
 三〇〇ル以上ヲ所有スルモノ
 (2) 動産
 三〇〇ル以上ヲ所有スルモノ
 (3) 一月地代
 二五ル以上ヲ支拂フモノ
 (4) 一年
 二〇〇ル以上ノ免許料 (License duty)
 ヲ支拂フモノ
 (5) 一月
 五〇ル以上ノ俸給受領者

0023

又官吏ニシテ議席ニ列セルルベキハ右ノ職ニアルモノナリ

1. Officer in Command of the Troops
2. Colonial Secretary
3. Procurement and Advocate General
4. Receiver General
5. Auditor General
6. Collector of Customs
7. Protector of Immigrants
8. Director of public works and Harbors

上記各議員ニシテ總ノ各職ニシテ之ノ為メ特ニ歳費等

ヲ受クルコトナレ

中央行政

中央行政機關トシテ、總督ノ下ニ各種ノ行政機關ヲ有ス外
 尚 Executive Council ヲ設ケ、官吏五名及ビ立法議會ノ

0024

選出ニ係ルモノニ名ヲ以テ組織ニ行政上ニ関シ總督ヲ
 補助セシム而シテ上記五名ノ官吏トハ左ノ職ニ在ル
 モナリ

1. Officer in command of the troops

2. Colonial Secretary

3. Procureur and Advocate General

4. Receiver General

5. Auditor General

地方行政

地方行政、全島ヲ九個ノ行政區劃ニ別ケ各區ニ

區長ヲ置キ各其管區内ノ統治ニ任セシメアリ

法律

現在ノ法律ハ佛國ノ法典ヲ基礎トシ多少ノ改正ヲ施

シタルモノニテ此ノ外諸般ノ制度ニ於テ併領當時ノ

遺制ヲ踏襲セルモノ多シ

0025

五 財政

(一) 歳計

モリリヤス島ノ歳入歳出ハ此數年以來大ニ増減伸縮ナク常ニ各六百六十分田(日本貨換算)内外ノ額ヲ示シツ、アリ乃チ左表ノ如シ

年	次	歳	入	歳	出
一九〇三—一九〇四年		九四七三、〇六	一、〇六六四、一五		
一九〇四—一九〇五年		一、〇三九九、五五	一、〇五六三、五三		
一九〇五—一九〇六年		一、〇二八七、八一	九九一五、八六		
一九〇六—一九〇七年		一、〇三三九、六八	一、〇一七四、五〇		

而シテ歳入ノ主ナル財源ハ関稅ヲ第一トシ鐵道收入免許稅及ビ認可科之次ガ一九〇六年度ニ於ケル五十万ルビ以上ノ科目ヲ見バ次ノ如シ

関税	三六〇、〇二九	ルピー
鉄道収入	二五〇、〇四九	
免許及認可料	二四四、三六六	
利子	八九、八三一	
次ニ歳出ノ主ナル費目ハ俸給及ビ諸給ヲ第一トシ鉄道 経営ニ要スル費途及ビ公債ノ利子之レガ次位ナリ		
一九〇六年年度歳出中五十一パーセント以上ノ金額ヲ有ス ル科目ヲ挙ケルニ次ノ如シ		
俸給及ビ諸給	二八、三三九	ルピー
鉄道経費	六一、三九二	
公債利子	一、二六一	
教育費	六、四〇九	
恩給	五八、三八一	

毎
一頁

0027

		右ノ會計年度ハ毎年七月一日ヲ以テ始マリ翌年六月卅日ニ終ル一々年ヲ以テ一會計年度トス		ホリトノ市ノ歳入歳出ハ各四十万由内外ニ過ギズ乃チ左ノ如シ	
年	度	入	出	年	度
一九〇四	年	五五七、六八三	五七一、二六三	一九〇五	年
一九〇五		七四六、三二八	六五八、五五二	一九〇六	
一九〇六		七九八、四四二	七九八、四四二	一九〇七	
一九〇七		五五五、一五七	五七二、七六五		
		(二) 公債			
モリシアス島ノ現在公債ノ金額ハ左ノ如シ					
種	類	發行額	償還額	未償還額	
鐵道公債		九一七、五〇〇	八三六、六〇〇	七八九、〇〇〇	

0028

水道公債	四八三、三九。		四八三、三九。
暴風公債	六〇、〇〇〇。		六〇、〇〇〇。
公共事業公債	一五〇、〇〇〇。		一五〇、〇〇〇。
計	三、一四九、八八九。	八三、八六〇。	三、二三二、七四九。
鉄道公債トハ、鉄道布設ニ要スル費目ノ財源ヲ得ン タメ發行シタルモノニシテ内ニ借換發行シタルモノ幾分アリ 利子ハ四分ノモノ二件、四分半ノモノ一件、六分ノモノ一件ア リ			
水道公債ハ、Vaccors市ノ水道建設ノ為メ一八八八年ニ起 シタルモノニシテ利子ハ四分ナリ			
暴風公債ハ一八九二年四月廿九日大暴風ニ依リ受ケタル 損害ニ対スル救助復旧ノ多ク起シタル公債ニシテ英國政 府之ヲ保証セリ利子ハ三分ナリ			

0029

公共事業公債ハ最近即一九〇四年ニ鉄道疏水
水道及ビ浚渫ノ事業ニ使用スル多発行
シタルモノモテ三
分半ノ利子ヲ附セリ

ポルトガル市ノ市債ハ二ロアリテ次ノ如シ

一三八。〇三三 磅

一四五。六四六 ルービー

(三) 貨幣

貨幣ハ主トシテ印度ノルービー貨ヲ用フルモ紙幣及ビ二十
仙銀貨以下ノ小貨ハモリエアス島總督府発行ノモノ
ヲ使用シツアリ古仙ヲ以テ一ルービトシ約十五ルービ
一磅ニ相當ス一ルービハ我が約六十六錢ナリ

0030

本島ニ流通セル硬貨ノ種類及ビ價格ハ左ノ如シ

印度銀貨 一ルビ 百仙又ハニ志

全 五ルビ 五十仙又ハ一志

全 十ルビ 二十五仙又ハ六片

全 二十ルビ 十二仙又ハ三片

全 五十ルビ 五片

全 十仙 二片半

全 銅貨 五仙 一片四分一

全 二仙 半片

全 一仙 四分一

殖民地總督府ヨリ發行シ目下流通ニツク紙幣ノ額ハ左ノ如シ

五十ルビ及十ルビ紙幣 四貫十三磅十六志二片

一

五

0031

十志一磅及五磅紙幣

三千三百八十三磅

五志一、十志一、五志一紙幣

三百八十九万四千二百五十九圓

六、産業

甘蔗耕作ハ本島主要ノ産業ニシテ千九百七年ニ於ケル
 砂糖ノ製産高十九万二千六百余噸ニ達シ前年ヨリ
 多キコト約九千余噸ニシテ尚年々増加ノ趨勢ヲ示シ全
 輸出額ノ約九割ヲ占ム

最近調査ニ依ルバ昨年ヨリ本年ニ掛ケ更ニ著シク輸
 出額ヲ増加シツアリ其理由ハ從來此島ヨリタル砂糖
 ノ輸出先ハ英本國アメリカ植民地及ヒ印度ニシテ
 香港方面ハ蘭領瓜哇ノ砂糖ニ壓倒セリ居リシ

0032

毛昨年来俄カニ此方面ニ対スル勢力ヲ増進シ
 額ノ輸出ヲ為スニ至リシ結果ニシテ要スルニ近來本
 島ノ糖業ハ珍ラニキ盛況ヲ呈シツアルカ如シ又本島
 製糖ノ價格ヲ聞クニ品質ハ三種ニ大別サルモ一
 口ノ價平均ハ心ビ「二心ビ」我六十六銭ノ割合ニテ高價
 ナルモ九心ビ「三心ビ」ヲ超ヘズト云フ但シ本島ノ製糖ノ総ハ
 粗製ノサヲナリ
 砂糖ノ外ラム酒、糖蜜、バナラ、植物纖維、油、石、鱈等
 ヲ産出シ多少ノ輸出アルモ其量著シカズ近時茶、綿
 ノ栽培ヲ試ミ漸次成功ノ域ニ進ミツ、アリト云フ
 牧畜、漁業等ハ極ノテ小規模ニシテ島内ノ需用ヲ充
 スニ足ラス
 住民日常ノ食料ハ殆ド皆外國ニ供給ヲ仰クモト

一七

0033

輸入

見ルモ不可ナク米穀並、麴色原料、印度地方ヨリ輸
入サレマダカスカルヨリ食料牛、南阿並、濠州ヨリ羊、
輸入セラル、カセキ又ハ凍肉ノ濠州ヨリ輸送ニ来ルカセキ其ノ
最タルモノナリ

セ、貿易

モリニアス島ニ於テ英國其他ノ外國ヨリ輸入スル商品
其他ノ總價格ヲ舉ケ左ノ如シ

年次	總價格
一八九八年	一、三三二、六〇八
一九〇〇年	三、〇七三、八七二
一九〇四年	三、五〇四、一六六

洋 一、三三

0034

輸出

<p>一九〇七</p>	<p>三一、一六六、九八</p>
<p>輸入先ノ主ナル國ハ印度大陸（總額ノ約半ハ右ニテ） 第一トシ英國佛國之ニ次ケリ輸入品ノ主ナルモノハ石炭 米肥料、綿等ニテ其他日用品ノ多量ヲ輸入ス 次ニ輸出品ノ總價格ヲ見レバ次ノ如シ</p>	
<p>一九〇四年</p>	<p>四二、〇〇五、六七三 ルビ</p>
<p>一九〇六</p>	<p>三三、六六〇、〇〇六</p>
<p>一九〇七</p>	<p>三六、二二〇、一六二</p>
<p>輸出先ハ印度大陸、第一トシ英國ケルコト殖民地ナリ 等之レニ次グ</p>	
<p>輸出品ハ殆ニト大部砂糖ニテ、藥草、糖、密、酒、 等多少アトモ日々足ラズ</p>	
<p>要スルニ輸出超過ノ趨勢ハ動カズ可カラザル状態ニテ</p>	

0035

<p>是レ一本島唯一ノ特産タル砂糖ノ輸出ニ歸ス可シ其 價格ハ實ニ全輸出額ノ九割五分以上ヲ占メツアリ 而シテ砂糖ノ産出額ハ毎年多少増加スルノ勢 ニシテ其栽培ノ實權漸次白人ノ手ヨリ印度人ノ手 ニ移リツアル有様ナルハ注意スベキ事實ナリ 耶一ケ砂糖 栽培地ハ近來盛ニ黑人ノ手ニ買收セラレ一 七年中ニ買收セラレタル土地ノ價格ハ實ニ百五十四一 七千余ニ上レリト云フ</p>	<p>左表ハ以テ本島ニ於ケル砂糖産出額増加ノ大勢 ヲ知ルニ足ラン</p>
<p>一八八八年</p>	<p>一三六、〇一二噸</p>
<p>一八八八年</p>	<p>一五、二一、七</p>
<p>一九〇三</p>	<p>一六、七、二四</p>

0036

出入船舶

一九〇七

一九二六五四

本島ニ於ケル^船船舶ノ出入左ノ如シ(一九〇七年調査)

入港

二二五隻

三七五、五一四

出港

二二二

三六七、九六三

九交通

鉄道

島内各部ノ交通ハ主トシテ鉄道ニ依ル鉄道ハ其全長

百三十哩ニ達シ島内主要ノ都市ニ連結セリ

道路及電信

道路及電信電話ハ島内殆ド遺憾ナク築設セラル

船舶

本島ニ航路ヲ有スル汽船會社ハ左ノ三者ニシテ其航

路左ノ如シ

(1) British India Steam Navigation

三

二一

0037

航路

<p>(1) Compagnie des Messageries Maritimes (2) The Union-Castle Mail Steamship Co.</p>	<p>(1) 佛國 M.M. 汽船會社線マニラ、馬耳塞、モリヤ、マニラ間</p>	<p>(2) 毎月十日馬耳塞ヲ発シ約三十日間マニラ、ポート・トルン、 達シ滞泊二日、後帰航(約三十日)ニ就ク往復寄 港地左ノ如シ</p>	<p>Port Said, Suez, Sidiute, Nombata, Zanzibar, Mogotta, Mayunga, Nossi Be, Diego Suarez, St. Mary, Comatona (マニラ港)、Madagascar, Reunion 但シ Grenon (Comoro G.) 及 Shulda mada (Zetama)</p>	<p>三、毎二ヶ月一回寄港スルモノトス</p>	<p>(4) 毎月廿五日馬耳塞ヲ発シ約二十六日間マニラ、 トルン、達シ滞泊二日、後帰航(約三十日間)ニ就</p>
---	--	--	---	-------------------------	---

0038

ク往復寄港地在、如シ

Port Said, Suez, Gibralta, Aden, Malde (Seychelles)

Diego Suarez, St. Mary, Camatole, Reunion

ポートルイニ於ケル代理店 Blythe Brothers & Co.

(二) フリケレイニディヤ「汽船會社線」ニ於ケル「モリニヤ」間

毎四週ニ毎一回(火曜)カルカッタヲ發シ古倫母ヲ至

由ニテポートルイニ至ルモノニテ此間十九日ヲ要ス土曜

日(毎四週)ニポートルイニ發シ古倫母ヲ至由ニテカル

カッタニ向テ而レテモリニヤニ於テ南阿諸港ニ向

テ「フ」ニオンニカッスル「線」ニ古倫母ニ於テP40汽船會社

線兼「カリ」ニケレイニテヤ「西航線」ニ連絡スルモノトス

ポートルイニ於ケル代理店 Scott & Co.

(三) 「フ」ニオンニカッスル「汽船會社線」ニ於テ倫敦「モリニヤ」間

0039

毎四週毎一四日曜倫敦ヲ發シ約四十日間ニテ

ボートルイニ連シ往航寄港地左ノ如シ

Southampton, Genesiffe, Capre Town,

Port Elizabeth, East London, Natal, Delagoa

Bay, Beira

帰航: Beira 寄港セバシテ Mozal Bay,

St. Helena, Ascension ヲカシ

ホートルイニ於テ代理店 Blythe Brothers & Co. Natal

海底電線

本島ニ揚陸セル海底電線ハ左ノ四線ナリ

一本島ヨリ東方ロドリゲス島及ココ島ニ至テ西濠州

ノコトニ至ルモノ

ニ本島ヨリ北方セイセル島ヲ経テ西岸利加東岸ガリ

ニバルニ至ルモノ

0040

四、アフリカ、インド、オーストラリア

三、本島ヨリ直チニ南亞州、利加南東岸

ナタル港ニ至ルモノ

（上記ノ三線ハイースタン、エント、サウスアフリカニ電

信會社ニ屬スルモノナリ）

四、本島ヨリ「ユニオン」島ヲ經テマダカスカル島ノ

東岸ヲマダガニ至ルモノ

（併國政府ノ所有ニ係ル）

九、市邑

本島ノ首府ハ北西岸ニアルポートルイスニシテ其ハ

詳細ハ次項ニアリ

和文

海 二五

「キヤパイプ」

「マハブルグ」

キヤパイプ (Cayapipa) ハ之レニ次ラ市ニシテ人口一カ
 三千余(千九百一年調査)ヲ有スウイシム高原ノ上
 部ニアリ氣候温和ニシテ数多ノ別荘ヲ有ス兵
 營ノ所在地タルヴアクア (Vacua) 其附近ニアリ
 マハブルグ (Machelbony) 旧時ノ首都ニシテグラン
 ドポルト (Grand port) ニアリ人口四千八百余(千九百
 一年調査)ヲ有ス此ノ市ハ佛領時代ノ有名ナ
 ル總督マハツラブルドンネー (Mache de Souboumnois)
 ノ名譽言ノ為メ斯ク名附ケタルナリ「ランドポルト」
 ハ湾口狹隘ニシテ港内淺礁多キシテ大形船
 舶ノ出入ニ適セズ

ニ六五

0042

概況

備考

十、ポートルイス

ポートルイスハ本島ノ首府ニシテ北西部ニアリ政廳
 其他各種ノ中央行政機関等ノアル所ニシテ其
 郭外ヲ併セ人口四カ八千(千九百八年調査)ヲ有
 ス數年前迄ハ尚多數ノ人口ヲ有セシモ近時
 中流以上ノモノニシテ中央高原地方ニ移住ス
 ルモノ漸次増加セシ結果其減少ヲ來セシモノナリ
 ポートルイスハ又本島唯一ノ良港ニシテ物資ノ供
 給豊カニ炭水神充容易ナリ港内ニ約二十
 隻ノ船舶ヲ碇泊セシノ得バシ唯十月ヨリ四月迄
 颶風襲來ノ現レアルトモ市内不健康ナルノ
 二欵点アリ

生駒入港ノ際ハ先ツ燈船附近ニ碇泊シタル

0043

二港務長(英國豫備海軍大尉)直ニ來艦
 二港内錨地ニ道ナケリ其投錨繫留位置港
 内一般ノ状況及當時碇泊セル汽船ノ繫留
 位置ヲ附圖ニ示スカセリ
 猶ホ港務長ノ語ル處ニヨシバ三十呎ノ吃水ヲ
 有スル船舶モ本艦ノ繫留位置ヨリ更ニ内
 方即チ普通汽船ト全所ニ繫留セムルヲ
 得ハク中間ニ横ハル四尋圖乃至四尋寸石ト記
 スル部分ハ實際ノ水深圖示ヨリ深ク満潮
 時ヲ利用セバ之レガタメ不自由ヲ感ズルコトナレト云
 フ
 和トルイニ出入ノ船舶ニ必要ナル港則共ニ針路
 法等ヲ摘記スレバ左ノ如シ港則中ニ颶風季

0044

竹郎ニ於ケル敬言戒事項多クアリ以テ如何ニ其
龍衣來ノ恐ルハキカラ知ルニ足ラン

一港則中ノ一二

(1) 登簿噸數百噸以上ノ船舶ハ本港出入
又ハ錨場变换等ニ際シ必ス管理者ノ
差圖ヲ受ケサルベカラズ

(4) 十二月ヨリ四月迄ノ間在港船舶ハ繫留浮
標及錨ニテ軸艦西轄泊ヲナスヲ要ス其他ノ
月ハ解部ハ一個ノバツアツカシニテ可ナリ

(3) 十二月ヨリ四月ニ至ル間在港船舶ハ港務
長ノ一令ノ下ニトツガマスル共ニローヤードヲ下ル
ノ準備アルヲ要ス

(2) 在港船舶ハ錨索又ハ索ヲ引締ノ緩ル

ニハ宜

0045

(一) 砲台及ウサリヤム砲台ニ至ルバカラスボ トルイスノ公共棧橋及波止場ノ外ハモリレ ヤス島ノ如何ナル沿岸ヨリモ上陸スマカラサルコト	(二) 一般ニ上陸ハ總督ヨリ其軍艦ノ屬スル本 國ノ領事ヲ經テ許可スルモ二百人以上ヲ超 エバカラス但ニ許可典ハラシタル間ハ個人トシテ士 官及兵員ノ上陸ハ差支ナキコト	(三) 外國軍艦ハ本島ノ各港及其沿岸三哩 ノ又ハ切斷シ得ル様ナレ置クヲ要ス (ホ) 汚物ハ港内ニ投棄スルヲ禁ス塵船ハ毎 週一回本船ニ送り汚物ヲ運搬セシム (ハ) 外國軍艦ノ武装セサル軍隊ハ次ノ條件 ノ下ニ上陸ヲ許可ス
--	--	---

0046

以內ニ入ルトキハ總督ノ許可ヲ受ケサルヤカラズ

又始メテ本島ニ近寄リ錨地ヲ求ムルハ外

探照燈ヲ点スベカラズ

(4) 外國軍艦ハ端舟ニテ本島ノ海岸線ヲ

探リ又ハ沿岸ノ測量ヲナスベカラズ

ニ燈船ノ位置及ヒ燈質

位置水深十五尋ノ處ニテ北方ノ隆端ヲ北

東イ北西方ノ陸端ヲ西南西ヨリ砲

台ノ旗竿ヲ南東ニ南

燈質、白光フラッティング光達距離海上各方面

九哩

フラッティングナルシクフラット島ノ回轉燈ト容易

ニ區別ニ得バシ

二哩

三、入港針路法

カシノニエール角ヲ廻ハリ北方ヨリ入港スル船舶ハ燈
 船ヲ発見スル迄ハ該角ノ燈光ヲフラツト島ノ燈
 光ノ西方ニ持チ來サシムル様注意スヤシ燈船ヲ
 南々西ニ西ノ方位ニ保チ一哩乃至半哩ノ處
 ニ近寄り投錨スヤシ
 西方ヨリ入港セントスル船舶ハ燈船ヲ東ニ北ニ
 北ニ保チ針路ニテ進ミ燈船ヨリ半哩ノ處
 又ハ便宜上尚ホ北方沖合ニ投錨ニ得ヤレ
 燈船ノ外方ノ繫維素ハ北々西ノ方向ニ百
 十尋張出シアリ投錨ノ船舶ハ注意ヲ要ス
 錨地ノ水深ハ十尋乃至廿尋ナリ
 四、暴風信号

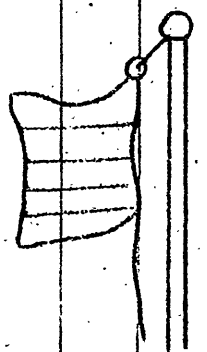
三二四

0048

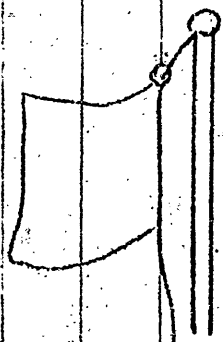
不良ナル天候近附キツ、アルトキハ港務局旗
 竿ニ次ノ信号ヲ揚揚シ「四ヨロシ」砲台旗竿
 ニテ之レヲ受継グモノトス

昼間信号

信号意味



白色方旗ニ「トツアケルニヤード」及「マスト」下シ荒
 青色三線 天準備ヲモ、在港各船舶ハ船長
 上ニ黒球 ハ出港準備ヲスル「バルガイ」附近
 船舶ハ外海ニ出ル準備ヲ要ス



赤旗上ニ「バルガイ」附近ノ船舶ハ外洋ニ出テ
 黒球 ヲ港内「バルガイ」ローアヤード」及「トツア
 マスト」下シ

夜間信号

港務局旗竿ニ青燈一個ヲ揚ク本信号ハ
ヨシ砲台ノ旗竿ニ受継キ且ツ号砲ヲ一發

ス
信号ノ意味ハバルアイ附近ノ船舶ハ外洋ニ出テ

港内ニアルモハ荒天準備ヲナセ

五、暴風期間ハバルアイ附近ニ碇泊スル船舶船長

ニ對スル教訓左ノ如シ

(一) 常ニ外洋ニ出テラレ様ニ保テ

(二) 投錨后直チニ不良ナル天候ニ對シ捨錨ス

ハキ必要ナル準備ヲナセ

(三) 外海ニ出テヨナル信号アルトキハ時ヲ移サズ出港

セサル可カラズ之レ風向ハ豫想ヨリモ速ニ変更移ス

0050

レバナリ

(三) 錨ノ浮標索ハ普通ノ索ヲ使用スルコト勿レ
常ニ避鉛鍍金ノ錨索又ハ全種類ノモノ
ヲ用ヒ浮標ニハ田材ヲ用ヒヨ之レ荒天ノ際
珊瑚ノ碎片取ハ四十八時間内ニ六吋索ヲ切
断スルコトアレバナリ

(ホ) 荒天ニ際レバルグイヨリ出港スルトキハ風向ノ
亦又移シ注視レ北方ニ轉スルトキハ南航ニ若
シ陸方ニ餘地アルトキハ東方ニ避航スル
之ニ及レテ風向南方ニ轉スルトキハ北航レフラツ止
島ノ方ニ餘地アルトキハ東航スル然ルトキハ晴
雨計上昇シ天候快復スルヲ見ルナラン
(ハ) 荒天ノ間ハ船首ヲ陸方ニ向クルコト勿レ之レバ

三ノ四

0051

ルダイレヲ出テ充分沖合ニ出テント考ヘシ船ト虫
モ斯クノ如キ時ハ海流強ク又其方向不定
ナルタノ辛フコテ坐洲又ハ損害ヲ免カレタル先例
アレハナリ

(1) 上記訓戒ハ多年本港ニ於テ先實驗ノ結
果ヲ綜合シタルモノナリ故ニ之ヲ実行スルトキハ多ク
ノ混雑ト損害トヲ免カルヲ得ハレ

六、水上警察

在港船舶ニシテ警察ノ補助ヲ要スルトキハ
旗ヲ大櫓ニ掲クマシ

七、報時球

港塔ニ於ケル報時球ハ日曜祭日ノ外午後一
時ニ落トセシム標準時ハ東至六十度(四時間)

0052

トス

其方法左ノ如シ

(イ) 十二時五十五分。秒

報時球 半揚

(ロ) 十二時五十八分。秒

全 全揚

(ハ) 十三時。分。秒

全 落降

若シ正確ニ落下セザルトキハ半揚ノ後再ビ全揚

ニ午後二時ニ落下セシム此時ハ「D」旗ヲ揚揚

ス

八 経線儀ノ比較

船長ハ午後一時ヨリ二時間ノ間ニ港務局ニ

於テ経線儀ノ比較ヲ行フコトヲ得ナレ

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

海
 三ノ宮

0055

船渠ホ夫ニ修理工場

(1) アルビヨニ船渠會社 (Albion Co.)

港内ノ外岸ニアリ小形ノ乾船渠三個ヲ有ス

ル船渠會社ニシテ千八百六十年佛人ノ創設

ニ係ル船渠ハ何レモ旧式タルヲ免レス其内一

個ハ頽廢シテ殆ド用ヲナサスト云フ

使用し得ル船渠(千九百九年著モリリヤスアルマナツクニ依ル)

全長 四百廿九呎 三百十八呎

全幅 六十呎 六十呎

水深 二十呎 二十呎

外ニ約四百噸吃水十二呎ノスリツプ一臺アリテ目下約五

十噸ノライダ一船一隻ヲ修理シツアリ小形旋盤具

0056

他五六台ノ小機械ヲ有スル約三十坪ノ小工場一棟ヲ有
 シ小形ノラジカリアーレ一個ヲ備フルモ機械缶共ニ腐
 蝕ニ最近ニ使用セル形跡ヲ見ズ煉鉄工場ハ此ノ
 軒下ヲ利用シニ三ノ火爐ヲ有シ約1/4噸力ノ汽鐘
 一台ヲ有スルノミ其他何等ノ修理工場ノ設備ナ
 シ目下黒人職工三十人ヲ使役シ毎年平均五、六
 回ノ入渠船船アリテ該時ニ到ラハ職工モ増加シ充
 分活動力ノ餘地アリト稱スルモ之ヲ要スルニ現状頗
 瘠微ムトシテ振ハサシモノ如ク到底失敗ノ形跡ヲ存
 スルヲ免レズ

(四) テーロア、スミス造船所 (Fairfax Smith & Co.)
 港内ノ北岸ニアリテアルビオニ會社ニ接ス小規模ノ修
 理工場ニシテ小形ノ機械、鍊鉄、造船其他各一

0057

通りノ各工場ヲ有シ兎ノ角現ニ諸機械ヲ運轉ニツ

アリ小形ノスリツプ一台アリテ
現ライター船ヲ修理セリ

黒人職工約六十人アリ木工場ニ木船及端船五六

隻ノ新造又ハ修理ニ從事ニツアリ又不完全ナル電

氣機械修理ノ設備ヲ有スルニ小蒸氣船公船

カソリニエンジンボルト等ノ製造ヲ最大カトス

(イ)「ジョー」鉄工所 (Fardine & Co.)

市内ノ東方ニアリ規模稍宏大ニシテ本島中隨一ノ

機械製作工場ナリ目下白人黒人ヲ交ニ轄工三

百人ヲ使役シ佛人ノ經營ニ屬ス模型鑄造銅

工製罐鍊鉄機械各工場ノ設備見ルバキモア

リ現ニ盛ニ諸機械ヲ運轉シ居リ主ニ陸上諸機

械ノ製作ヲ營業ト目下其主ナルニ砂糖製作

0058

石炭

機

械一及ビヴァキエムボニアアリ最大鑄造力、鑄鉄四

五噸重量ノモノナリ 駆逐艦機関位ノ製作力アルモ

ノト認メラル

本島第一ノ石炭商ハブライズ兄弟商會(Bray & Co.)

炭モ本會社ニ於テ依頼ヲ受ケ取扱ヒ居リト云フ炭

種ハ主ニ英炭ニシテカタル炭及ビカチゴ煉炭アリ一々年

ノ取扱額ハ約五万噸常備貯炭量ハ一万噸内

外ナリ 艦船ニ供給スル炭量ハ二千噸内外ナリ何時

ニテモ之ニ應スルヲ得ト云フ

貯炭所ハ港ノ北岸ニテ英海軍用ノ炭庫ニ棟全

所ニアリテカチゴ煉炭約三千噸ヲ格納ス其他ハ其ノ

周圍ノ露平地ニ約五六百噸ノ英炭及カチゴ炭及

カチゴ炭

0059

油

少許ノカドゴ煉炭ヲ堆積ニアリ
 積出し用棧橋一ヶ所アリテ艦船ノ給炭ニ最モ適當
 セル長方形ノライク山二十五隻(一隻五十噸乃至六十噸
 積)ヲ有シ豫メ之ニ積込ニ置キ會社附近ノウヱットブー
 スニ内ニ繫留ニアリ艦船ニ對スル一日ノ載炭力量ハ
 昼間正味八時間ノ労働ヲ以テ優ニ一千噸ヲ搭載シ
 得ル英炭一噸ノ價格廿二圓五十錢ナリ
 石炭ハ四五千噸ノ商船一二隻ニ依リテ絶ハス本國
 及ビナタールヨリ供給ヲ受ケツニアリ然レトモ載炭地トシテハ
 其貯炭額及設備ノ小規模ナルヲ免ヒス
 機械油商スコット商會ナルモノアリバキユラムオイルコン
 パニーノ代理店ニテコールデリス街ニアリ
 油ノ價格次ノ如シ

四頁

0060

淡水

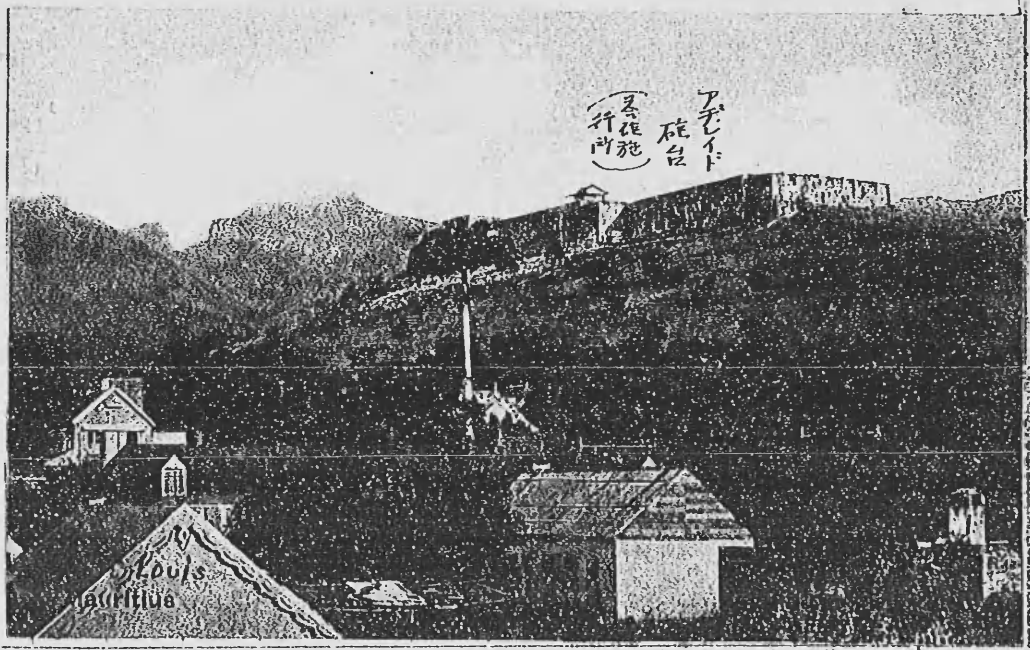
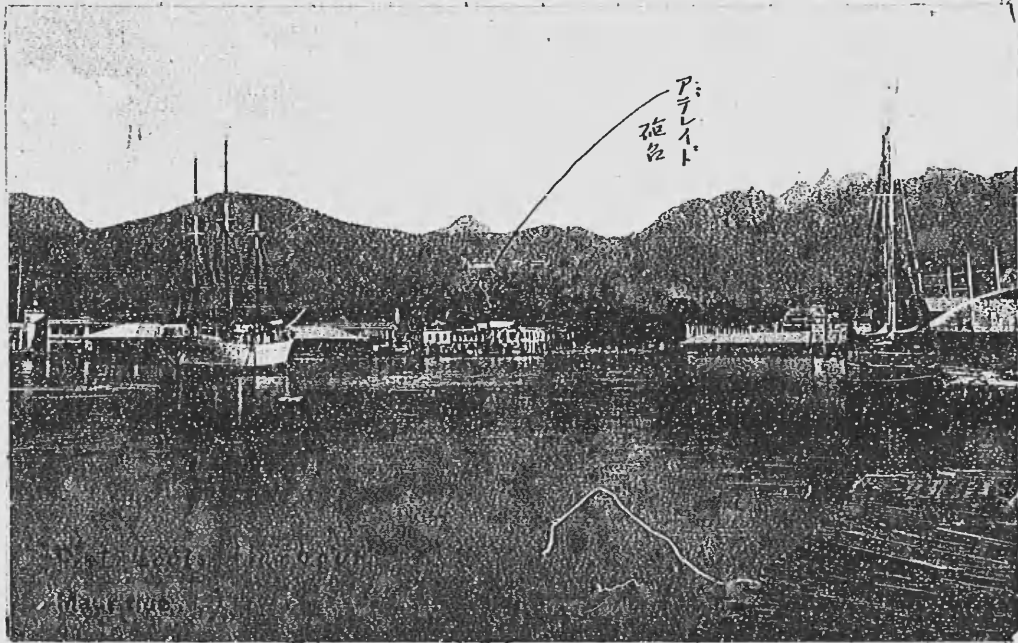
<p>「マリンエンジンオイル」 一ガロンニ付キ 二、一五「イピー」</p>	<p>「マリンレリンドーオイル」 シ 二、三五シ</p>	<p>「コルサオイル（バーヒングオイル）」 シ 二、五五シ</p>	<p>「アアン子ルバアリニグリース」 シ 〇、四〇シ</p>	<p>但シ「イピー」ハ六十六銭ニ相當ス</p>	<p>英海軍契約ノ淡水商ウサドウ、エム、モルガシ (Widdows)</p>	<p>M. Morgan)ナルモアリ百噸及ヒ二十噸積ノ水船各</p>	<p>一隻ヲ有シ各毎時約二十噸力量ノ送水唧筒一基</p>	<p>ヲ有ス價格ハ昼間ハ一噸ニ「イピー」ニシテ夜間ハ半心</p>	<p>「イピー」ヲ増ス水質ハ本島ノ南方ノ市街ヲ距ル約十</p>	<p>哩ノ高地ヲ流ル水流ヨリ水道鉄管ヲ市内ニ敷設</p>	<p>シ市民一般ノ飲料ニ供スルモノナルガ故ニ甚ク清澄ニシテ</p>	<p>塩分ヲ包有セズ其質最良好ナリ魚モ夏季流</p>
---------------------------------------	------------------------------	-----------------------------------	--------------------------------	-------------------------	--	------------------------------------	------------------------------	----------------------------------	---------------------------------	------------------------------	-----------------------------------	----------------------------

四五頁

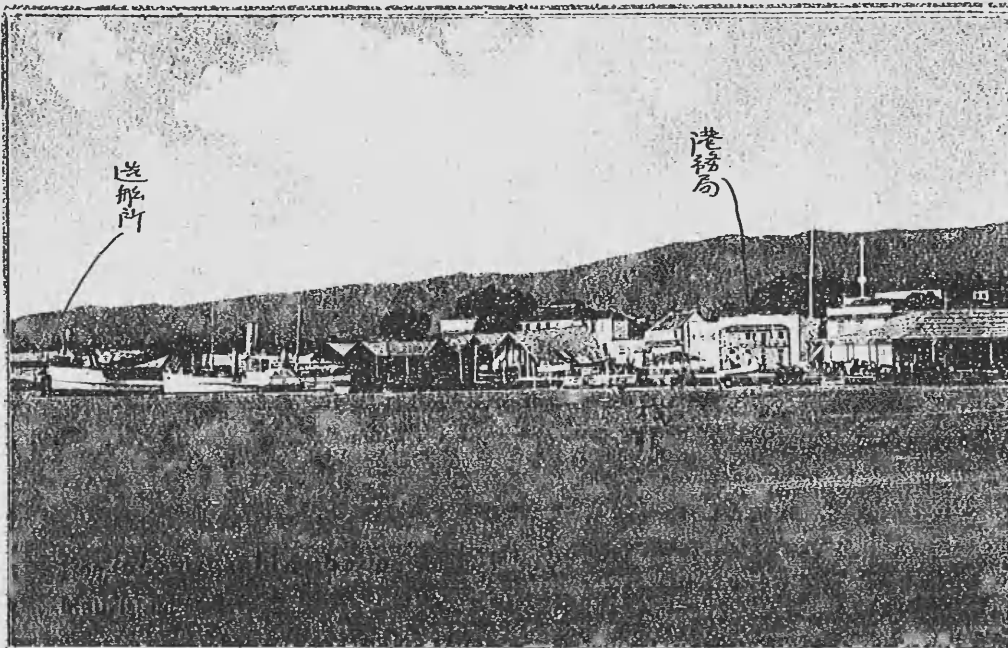
0061

									行病ノ勢力大ニ時ノ如キハ到底飲用トナスヲ得	ガ ル ナ リ
--	--	--	--	--	--	--	--	--	-----------------------	------------------

0062



0063



送船所

港務局

四ノ宮

0064

十一、海軍ニ関スル事項

「モーリニヤス」島ニ海軍ノ兵力ヲ有セス唯喜望峯艦隊カ其指司令官指揮ノ下ニ毎年七八九月ノ頃本島ニ寄港シ六週間乃至二月滞泊スルニ過キス

他ノ英國軍艦モ時々ケイプトノ往復ノ途中寄港スルコトアリ先年「フリブル」モ今回生駒碇泊ノ位置ニ滞泊セルコトアリト云フ

本島ニハ「ホルト」ルイニ英海軍用ノ炭庫ニ棟アリテ「カーチ」煉炭約三千噸ヲ蓄積セル外海軍ニ関スル何等ノ設備ナシ

因ニ言フ英國海軍ニテハ七八年前ヨリ「カーチ」粉炭ヨリ製造スル煉炭ヨリタルタ「其他」各所

四八

0065

礼
砲

海
軍

配
備
の
東
炭
の
不
変
質
ヲ
利
用
シ
永
時
野

藏
ト
ナ
ス
ヲ
聞
ケ
リ
本
島
ニ
ヤ
ル
モ
ノ
モ
蓋
シ
之
ト
全

轍
ニ
出
ツ
ル
モ
ノ
ナ
ラ
シ

英
國
々
旗
ニ
對
ス
ル
礼
砲
ノ
答
砲
ハ
Port Adelaide

(Port Adelaide) トモ云フヨリ行フ全砲台ノ位置

港
奥
ニ
當
ル
山
ノ
中
腹
ニ
ア
リ

0066

十二 陸軍ニ関スル事項

(一) 編制

(1) 司令部ノ編制

司令部ハ *Quartermaster's Office* ノ兵營ト全所ニアリ但シ總督ハ
別ニ *Adjutant-General's Office* ニ住ス其編制左ノ如シ

總指揮官 總督 *General Officer Commanding*

副官 尉官一名

秘書官兼副官 尉官一名

駐屯軍司令官 陸軍少將 *Major-General Macdonald*

参謀 佐官二名

一名ハ教育訓練及動員等
事務ヲ司リ他ハ日課其他ノ隊

毎

一頁

0067

務等ヲ掌ル

副官

尉官 一名

但シ砲兵工兵ハ各隊長ノ外別ニ各中佐一名アリテ特科ノ事ニ関シ司令官ヲ補佐シ兼テ之レカ指揮ヲ採ル但シ駐屯地ヲ變セラル、等ノ際ハ其軍隊ト共ニ轉任セス要スルニ特科參謀ニ類スルカ如シ

(四) 諸兵ノ編制

印度兵ハ砲兵一個中隊ニミニシテ他ハ皆英兵ナリ

歩兵

駐屯歩兵ノ總數

一個大隊

右ノ編制

八個中隊編制ナリ一個中隊

0068

(百人定数)八四個小隊

右ノ名稱

Regiment of Artillery

聯隊ノ第三大隊

参照全聯隊ノ他ノ一個大隊ハ

英蘭士^三他ノ一個大隊愛蘭

士^三他ノ一個大隊ハ印度ニアリト

云フ

兵營ノ所在地

七個中隊ハ *Madras* 一個中隊ハ *Kassipalayam*

砲兵

駐屯砲兵ノ總數

二個中隊

右ノ編制及名稱

Royal Artillery

要塞砲兵ノ第五十六中隊

Shanghaing Singapore

五三 頁

0069

<p>兵營ノ所在地 <i>Royal Garrison Battalion</i> 第一中隊(印度兵)</p>	<p>工兵 <i>Company</i></p>	<p>駐屯工兵ノ總數 一個中隊</p>	<p>右ノ名稱 第四十三中隊(要塞)</p>	<p>兵營所在地 <i>Laccas</i> 外ニ兵罫支廠衛生部及經理部等附屬セリ</p>	<p>(二)砲台ノ位置 砲台ノ位置其砲數等ニ就テハ聞クヲ得サリシモホー トルイス港ノ入口兩側 <i>Saint Williams</i> 及 <i>Saint Decree</i></p>	<p>及陸上市街ノ中央ニアル <i>Saint Shale laid</i> 等ニシテ</p>
---	-------------------------------	----------------------------------	-------------------------------------	---	--	---

0070

其防備ノ資料舊式タルヲ免レサルカ如シ

海

五
五
頁

0071

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

40
 1

0072

(三) 兵營ノ状況

Decease ニアル兵營ハ歩兵大隊長自ラ案内シ本艦
便乗ノ伊東歩兵中佐及ヒ本艦將校ニ觀覽セ
レメタリ注意スヘキ諸真左ノ如シ

構造

熱帶地方ニシテ暑熱強キト降雨繁クシテ極メテ
湿氣多キト有毒ナル蚊等ノ襲来ヲ豫防スル為
メ兵營ハ特種ノ構造ヲ有ス即チ概シテ鉄骨木
造ニシテ一見ニ階ノ如ク建築シ下層ハ單ニ支柱
ノミトシ其高サ約九尺周圍ニ何等ノ圍ヒナク自由
ニ空氣ノ流通ヲ許ス床下ハ總テアスワアル上
キトナシ極メテ清潔ニシテ乾燥セリ上層ハ一
般兵卒ノ居住ニ充テ寢台ヲ設ク又尺ク蚊帳ヲ

毎

六七
頁

0073

使用セリ其状ハ日本ノ如ク釣手ヲ四隅ニ有スルコト
ナク四錐形ヲナシ天井ニ只一個ノ釣手ヲ有シ
下方ニ至ルニ從ヒ漸次擴大シ以テ寢台ヲ全ク蔽
フニ至ル頗ル簡便ノ方法ナリ一室ハ一個中隊ヲ三
分シ(即チ一小隊ヨリ移多人數ナリ)テ給養班ニ分
テリ食事ハ下層ニ於テナスヲ普通ナリト云フ
又兵營ノ周圍ニ總テ日本ノ如ク塀ヲ設クルヲ
見ス比皆公開ナリ

一般居住ノ状態浴室酒保其他支給品等ニ至
ル迄其程度甚ク高ク其贅澤ニ過キサルヤヲ感
セシメタリ

但シ本島ハ十月ヨリ四月迄颶風襲來ノ虞アル
ヲ以テ豫メ乾麵包及肉類罐詰ヲ貯藏シ暴

0074

風雨ノ節普通ノ如ク割烹ヲナシ能ハサル際之ヲ文
給スルノ状態ナリト云フ

(四) 教育訓練ノ程度

當地駐屯ノ兵士ハ多クハ本國其他ニ於テ一年內
外ノ初歩ノ訓練ヲ經タルモノナリ今地司令官ハ殊ニ
好意ヲ以テ步兵中隊中隊ノ對抗演習ヲ施
行シ伊東歩兵中佐山梨少佐ヲシテ之ヲ觀覽セ
シメタリ而シテ之ニ對スル伊東中佐ノ所見左ノ如シ
演習ノ想定ニ於テハ別ニ意見ナキモ中隊ノ演習ト
シテハ廣大ナル區域ニ動作シ從テ指揮ノ統一ヲ
欵キ加之ナラス一ケ中隊ヲ攻防兩者共數ケニ分
離シ一ケ小隊ヲ全力中隊ノ主力ト分離シテ牽制

的動作ヲナサレム等稍大部隊ノ戦闘動作
ニシテ中隊ノ如キ小部隊ノ演習トシテハ頗ル不
適當ナリ是レ或ハボーア式戦闘ノ餘弊未ダ
脱却セサルニハアラサルヤコ疑フ

各兵ノ動作

各兵ノ動作ハ概ネ敏捷ニシテ射撃ノ緩急ノ
如キモ又夕見ルハキモノアリト雖モ前進動作ハ
依然稍ホアー式ニ類似セリ

武装

小銃ハ日本式ノ騎銃ニ似テ長サ短ク十連発ナリ
優秀ノモト信スルヲ俱ス步兵ノ用ユル機関銃ハマ
キレハ式ニシテ車輛ニテ運搬スルモノナリト云フ
演習中ノ武装ハ頗ル軽装ニシテ運動ノ容易ナルヲ

0076

主トスルカ如キ感ナキニシモアラス 戦闘教練
武裝トシテハ稍々不適當ナルニアラサルヤノ感アリ然レ
此是レハ炎熱ノ關係ノ然ラシムル所ナラシ
戦闘武裝トシテハ武官彈藥(一)ノ携帶彈十五發入十三發
肩ニセツ腰部ニ云々ノ外 雜囊及飯盒ヲ負フクニシテ被
服其他毛布等ヲ携帶セス且等ハ總テ大行李ニ積
載スト以上ノ關係上大行李ノ車馬數ハ日本車馬數ニ比
シ遙カニ増大ス(二)ト信ス

(五) 守備軍司令部ノ談話

全世界各地ニ散布シアル英國殖民地及海軍根
拠地 載炭地等ノ防備制度ハ複雑ヲ極メタルモノニ
シテ又巨大ノ經費ヲ要スルモノナリト雖モ性質上之

ヲ変更スルハ至難ノ事タリ其原因ハ今國陸軍ハ
 徵兵制度ニ依ラスレテ義勇兵ノ組織ニ依ルヲ
 以テ多クハ熱帯地方ニアル孤獨ノ不健康地ニ永
 住的ニ駐屯セシムルコトハ一般ノ好マサル所ニシテ已ム得
 ス約二年毎ニ其駐屯地ヲ变换セサルヲ得ス又一地
 ニ多數ノ軍隊ヲ要スルコト稀ナルニ拘ハラズ其箇所
 多キヲ以テ勢ヒ多數ノ兵卒ヲ分派スルニ迫マラレ
 大陸的ニ之ヲ集團シテ組織系統アル教育訓練
 ヲナスコト難シ之レ英國ノ陸軍編制ニ於テハ大陸諸
 國ノ如ク聯隊ヲ一團トシテ移動セシムルヲ得ス大隊
 單位ヲ以テ之ヲ行フ所以ナリ之レ最モ患フベキ弊莫
 ナリトス依テ事情ノ許ス限り印度ノ如キ所ニ於テ
 大兵團ヲ常置シ茲ニ於テ教育訓練ヲ施シ必要

新
 二
 三

0078

ニ際シ之ヲ各所ニ分派スルノ法ヲ採用セリ因ニ記ス日
露路戦争ノ際「ロ」キエストウエンスキ「山」マタカスカル島
ニアリレハ常備兵数ノ外約ニ個大隊ヲ印度ヨリ増
援警備ニ充テタリト云フ

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

洋
目録

0080